

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38901450065
法人名	株式会社ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1-1
自己評価作成日	平成24年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 1月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様のその人その人の得意とすることで、力を発揮してもらっている。 ・いつも明るく笑い声が絶えない。 ・広い中庭があり、気候の良い時は散歩をしたり、日光浴をしたりと思いいいに過ごされている。 ・旬の食材を使った料理を提供している。 ・2か月ごとに広報誌を発行している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は事業所の理念を共有し、利用者に寄り添って温もりのある関係づくりを大切にしながらケアにあたっている。利用者ごとにアルバムを作成するなど、一人ひとりを大事にする姿勢が伺える。事業所全体やユニットごとの行事は、地域のボランティアの力を活用して行っており、利用者の楽しみになっている。家庭的な雰囲気の中で、旬の食材を使った食事やおやつを手作りして、利用者職員と一緒に食事を楽しめるように努めている。協力医療機関や同法人の他施設との連携が図られており、健康面で安心できる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム 小松の里
(ユニット名)	東通り
記入者(管理者)	
氏名	伊藤 元栄 (兵頭 恵子)
評価完了日	平成24年 12月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は事業所の目につくところに掲示してある他、名札の裏にも記載してあり、確認できるようになっている。朝夕の申し送り時、小松の里の心掛け「あたたかく・さりげなく・気配り・目配り」を唱和しており、いつも念頭に置きケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人の理念をもとに、事業所独自の理念を掲げている。職員は、日頃から利用者の状態変化や思いに早く気づくよう心がけ、さりげなく声をかけたり気配りをしている。利用者が和やかに日々を過ごすことができるよう理念を共有しケアにあたっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の中学校の生徒が定期的に訪れ、一緒にゲームを楽しんだり、祭りにはだんじりが来荘してくれており、利用者はとても楽しみにしている。又、ホームの行事の際には、地域の方にも案内状を配布している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に参加している近所の理髪店の方が散髪に来てくれたり、地域のボランティアが定期的にハンドケアや歌謡ショーに訪れるなど、日常的に地域の協力が得られている。地域の中学生が定期的に訪問し、一緒に歌を歌ったり散歩をするなど、交流が利用者にとって喜びや楽しみになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2か月に1度、地域の方にも広報誌を配布しており、ホームの色々な取り組みなどを紹介している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回、状況報告を行い、その場での意見をサービス向上に活かせるように努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議には自治会長や民生委員、近隣住民、地域包括支援センター職員、介護相談員、家族、利用者が参加している。事業所の状況をよく知ってもらうために、敬老会や避難訓練を同時開催したりしている。管理者は、議題内容を一層充実させたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の訪問、運営推進会議に市の担当者の出席がある。事業所の取組みを伝え、協力関係を築けるようにしている。	
			(外部評価) 市が主催する勉強会に職員が参加したり、市のサービス向上委員会にケアマネジャーや管理者が出席し情報交換を行っており、協力関係を築いている。成年後見制度の利用時にも市に相談したりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関の施錠はせず、チャイムの音で出入りに気づくようにしており、夜間のみ防犯のため、施錠している。玄関から出て行かれる利用者もおり、職員と一緒に近所を歩いたりし、無理に引きとめたりはしないようにしている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについてユニット会で話し合い、勉強会や外部研修も継続して行っており、全職員が正しく理解している。言葉による拘束にも気をつけている。日中は、玄関や窓に鍵をかけないで、安全に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会やホーム内での学習会などで学ぶ機会があり、防止に努めるようにしている。言葉による虐待に関しても注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の方に後見制度を利用している方がおり、制度については理解できている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 文書にて説明を行い、納得してもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱の設置や面会、サービス担当者会議に来られた時に話す機会はあるものの、要望等あまり聞くことはない。 (外部評価) 家族の面会時には、ユニットや居室に自由に入ってもらい、職員は話しやすい雰囲気づくりを心がけている。また、家族に生活記録を開示して要望を聞くようにしている。月1回、介護相談員の訪問があり、利用者の思いを聞き取っている。サービス担当者会議を「茶話会」と称して、家族が気軽に参加できるよう案内しているが、参加者が減ってきたことが課題である。クリスマス会では家族が大勢集まり、家族による楽器演奏が行われるなど良好な関係にある。	気軽に運営に関して意見や要望を出してもらえるように、家族同士で話せる機会を設けるなど工夫することに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ユニット会や委員会などで出た意見を聞いてもらっている。</p> <p>(外部評価) 運営母体には連絡会や管理職会があり、管理者は事業所の要望を伝えている。事業所には、全体会やユニット会、栄養・環境・行事の委員会があり、誰もが意見を出し合える雰囲気がある。職員は年間目標を設定して半年ごとに自己評価をしており、その後の管理者との面談は話し合いや意見を出せる機会になっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 個々で年間目標を設定し、管理者との面談を行っている。その目標をクリアできるように、各自がそれぞれに努力している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 本人が希望する研修や、その人に合った研修に参加できるように配慮している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 相互研修に参加することにより、他のホームのいいところを取り入れたり、当ホームとの違いがわかりよい刺激になっている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用前にその方の状態の聞き取りを行い、不安なことなどを把握し、本人が安心してホームで生活できるような関係作りに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 開始前には、家族との話をする場を設け、よい関係作りに努めるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前に情報を提供してもらい、必要とする支援を早い段階で見極められるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に生活しているという関係を前提に、なじみの関係になってもらえるように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られた時や、月に1度手紙で近況報告をしており、今の状態を伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ほとんど家族の方との関係であり、たまに友人の方が訪ねてくる程度でしかない。	
			(外部評価) 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないように、希望に合わせてお寺や神社にお参りに行っている。また、家族との外出や帰宅などを支援し、家族と一緒にお正月を自宅で過ごした利用者もいる。面会に来た知人との関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合った者同士、同じテーブルの席に座ってもらったり、不穏になられた方の話を聞いてあげる人やできないことを変わりに行ってくれる方など、支え合える関係が成り立っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了後の関係は大切にしたいと思うが、なかなか取り組むことはできていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意向を把握できる方には希望を聞き、本人本位に暮らしてもらっている。困難な方には、職員で話し合いを持ち検討しているが、それが本人にとっての思いかどうかはわからない。	
			(外部評価) 気づきノートをユニットごとに作り、利用者の変化や何気ない会話等を書き留めて、思いや意向の把握に努め職員間で共有するようにしている。利用者の食べたい物や行きたい所など、できることは迅速に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 何気ない会話の中からも、家族の方からの情報などで、今までの本人の暮らし方の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録を通し、その方の今の状態が把握できている。状況の変化があった時には、オンリーワンメモや気づきノートに記載し、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回茶話会を開き、話し合いを持つようになっているが、段々家族の参加が少なくなっているのが現状で、職員で話し合い、家族に電話で情報をもらったりしながら、介護計画を作成している。	
			(外部評価) 職員は利用者ごとに担当制を設けているが、介護計画はユニット全体で話し合っ意見を出し作成している。家族からは、利用者が家で行っていた家事や特技などの情報を聞き取り、希望などを介護計画に取り入れている。モニタリングを行ない評価し、現状に即した介護計画となるよう見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の生活記録の記入、気づきノート、オンリーワンメモ等を活用し、職員間で情報の共有を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況の変化に伴い、できる範囲での支援やサービスに取り組むようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 中学生の清掃ボランティア、歌謡ショーの慰問、消防署指導のもと避難訓練等行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用前に家族等と相談の上、かかりつけ医を変更する 場合もあるが、継続して受診を希望される方には、受 けられるように支援している。	
			(外部評価) 管理者は急変時などに備えて医療連携を重視してお り、入居時に利用者と家族の同意を得て、協力病院を かかりつけ医にすることもある。協力病院への受診介 助は職員が行い、その他の受診は家族の協力を得てい る。年2回の健康診断や協力病院による週1回の往 診、必要に応じて歯科医の訪問診療を受けることがで きる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調の変化が見られた時は、看護師に報告、相談した うえで、適切な対応がとれるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体が病院であり、入院になった場合は面会に行き、 様子を聞いたりしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルは行っていないが、家族の希望があった場 合ぎりぎりまでホームで看ることもあるが、重度化し た場合は病院に入院することが多い。	
			(外部評価) 看取りの介護は行わない方針であることを入居時に利 用者と家族に説明し了解を得ており、重度化した場合 は状態に応じて他施設への入所等を家族にお願いして いる。協力医療機関や運営母体に多様な施設があり、 安心して利用することができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 2年に1度、市の救命救急講習を全職員が受講しているが、実際に起きた時、冷静に対応できるかどうかかわからない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防避難訓練を行っている。風水害の避難訓練も今年初めて行った。地域との協力体制となると、難しいところがある。	
			(外部評価) 消防署の指導のもと年2回の避難訓練を行っている。水害を想定した訓練では、短時間で2階に上がることの大変さがわかり対策を検討している。現在、水や缶詰、パン等備蓄食料があるが、余分に備えることや非常持出袋の整備を進めている。市の救命救急講習を事業所で行う予定もある。	職員が事業所の近くに住んでいることや協力病院が近いことから、災害時に協力が得られやすい環境にあるが、近隣住民との連携はまだ十分ではない。管理者は、自治会活動へ積極的に参加し災害時の協力関係を築きたいと考えており、今後の取組みに期待したい。また、自主訓練を重ねて多様な災害に備えることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、うやまう言葉かけをしていきたいが、慣れ親しんだ利用者の方に、つい行き過ぎた口調で言ってしまう、時には気分を害してしまう時がある。又、大きな声でトイレの声かけを行ってしまうことがあり、プライバシーを損ねないよう対応していきたい。	
			(外部評価) 職員は常に尊敬の気持ちを忘れず、利用者一人ひとりに合った声かけやコミュニケーションをとることに努めている。特に排泄時や入浴時は羞恥心に配慮している。管理者はサービスの質の向上のためには、尊厳やプライバシーを大切にされた接遇が重要と考え、職員教育に力を入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) おやつ時、好みの飲み物を聞いたり、選択できるような声かけを行うこともある。自己決定困難な方には、表情や仕草から望んでいることを把握できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のペースに合わせ、昼寝したい方には横になってもらったり、食事時間になっても食べたくない方には、時間をずらして食べてもらったりの対応をしているが、職員のペースになりがちなので、気をつけたいところではある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人らしさを残しながら、その季節に合った装いができるように支援している。お気に入りのビーズのブレスレットや指輪をいつも身につけている方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その方に合った食事形態にし、食べやすくしている。食事の下ごしらえや片づけを手伝ってもらったり、職員も同じテーブルで同じ食事を一緒に食べている。	
			(外部評価) ユニットごとに献立を工夫し、食事とおやつの手作りに力を入れている。産直市で購入してきたり畑で採れた新鮮な野菜を使って、季節のものを食べることができるよう心がけている。クリスマスなどの行事の時にはオードブルを作り、利用者と家族が楽しめるようにしている。誕生日には外食することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食欲のない方には、高カロリー食で対応したり、水分量の少ない方には、ゼリーや甘い飲み物を勧めたりして、できるだけ水分を摂ってもらえるように対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけや介助にて口腔ケアを行っている。毎晩、義歯洗浄剤を使用し、清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に記入することで、一人ひとりのパターンを把握し、トイレへ誘導することで失敗を減らせるように支援している。	
			(外部評価) 車いす用の広いトイレと通常のトイレが整備され、利用者の状態によって使い分けている。日中はトイレでの排泄支援を行い、安易な紙おむつの使用はしないよう心がけている。夜間は、個々の状態に合わせてパットを使用し交換をするなど支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝センナ茶の飲用を勧め、自然に排便できるようにしているが、便秘ぎみの方には濃さや量で調整している。また、オリゴ糖を使用したり、適度な運動も心掛けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 訴えのある方には、希望に沿うように対応している。ほとんど毎日入浴される方や、夕方に入りたい方もいたり、仲の良い者同士と一緒に入浴されたりと、その方に合った対応をしている。	
			(外部評価) 午後の時間帯に入浴できるよう支援している。夕食後希望する場合も対応している。浴室は一般家庭の浴室と同じ造りで、身体状況により浴槽での入浴が困難な利用者にはシャワー浴を行い、入浴できないときは清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なかなか寝付けない方や、夜間目が覚め、眠れない方には眠気がでるまで、リビングで過ごしてもらったり、前夜眠れなかった方には、日中横になって休んでもらうような支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりや使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの処方箋をファイルしており、いつでも確認できるようにしている。薬が変更になった時は、様子観察を行っている。また、服薬時は3度の確認を行い、誤薬、飲み忘れのないように対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) カラオケの好きな方や、裁縫が得意な方等、その人その人に応じた支援をしており、生き生きとした表情を見ることができる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の方にお墓参りや、いきつけの美容院につれていってもらったりしている。又、職員と一緒に買い物に出かけたり、ユニットでの外出も取り入れている。	
			(外部評価) 中庭が広く日当たりも良いため、散歩や日光浴を楽しむことができる。近くの喫茶店に出かけることもある。車両に余裕があり、ユニット単位で外出する場合は全員で行くことができる。管理者は事業所外に外出する機会を増やしたいと考えており、利用者の希望も取り入れながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお金を持っている方は少ないが、買い物に出かけた時には、自分で支払いできるよう見守っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話して欲しいとの訴えがある時に、職員が電話し本人に変わり、話をしてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 室温は、日に3度測定し適温に保つようになっている。24時間換気、冬には加湿器を使用している。又、季節の装飾品を飾ったり、利用者と職員が一緒に作った大きなカレンダーを壁に貼っている。</p> <p>(外部評価) 共用空間は居心地よく過ごせるようすっきりと整頓され、季節の花を飾るなど季節感に配慮している。利用者は和室のこたつなど思い思いの場所でくつろいでいる。空気清浄機を配置し、気になる臭いがないよう注意している。清掃は職員が行っているが、リビングのモップがけなど利用者も手伝って常に清潔に保たれている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 和室や廊下のソファ、中庭のベンチなど思い思いの場所で過ごされている。気の合った利用者同士がそれぞれの部屋を行き来したりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご自分の若いころの写真や、家族写真を飾ったり、ぬいぐるみや造花を飾ったりしている。家で使っていた机と椅子を持ちこんでいる方もいる。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドやクローゼットが備え付けられている。家庭から使い慣れた家具や好みの小物など自由に持ち込んで、その人らしい過ごしやすい空間にしている。自分で掃除ができる利用者もいるが、職員が見守りながら居室を清潔に保つよう支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室の入り口には、名前入りの表札が張っており、自分の部屋だと認識できている。廊下やトイレ、浴室には手すりがついており、安全に過ごせるようになっている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1-1
自己評価作成日	平成 24年 11月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 1月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・カメラ夏祭り、地域にも案内状配布し開催している。 ・ネットカメラ広報誌2カ月ごとに発行、地域や同業事業所等に配布している。 ・お花見には、近隣の公園へ『手作り弁当持参』で言っている。 ・敬老会、家族様やお友達・運営推進会の方々招き、毎年趣向凝らし職員の余興や今年は、おやつバイキングを行った。 ・毎年、小松中学生が小松タイムとして6月から11月初めに授業の一環と訪問がある。 ・10月には、カメラ運動会がある。(今年は悪天候のため西ユニットリビングにて) ・正月には、職員手作りの『おせち料理』(既製品も入る)など。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は事業所の理念を共有し、利用者に寄り添って温もりのある関係づくりを大切にしながらケアにあたっている。利用者ごとにアルバムを作成するなど、一人ひとりを大事にする姿勢が伺える。事業所全体やユニットごとの行事は、地域のボランティアの力を活用して行っており、利用者の楽しみになっている。家庭的な雰囲気の中で、旬の食材を使った食事やおやつを手作りして、利用者と職員と一緒に食事を楽しめるように努めている。協力医療機関や同法人の他施設との連携が図られており、健康面で安心できる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 小松の里

(ユニット名) 西通り

記入者(管理者)

氏名 平塚 眞由美 (兵頭 恵子)

評価完了日 平成 24年 12月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 会社としての理念は名札の裏に記載、いつでも見て確認することができる。ホーム独自の心がけとして「温かく、さりげなく、気くばり、目くばり」を事務所の目につくる所に貼ってあり朝・夕の申し送り時に復唱している。	
			(外部評価) 法人の理念をもとに、事業所独自の理念を掲げている。職員は、日頃から利用者の状態変化や思いに早く気づくよう心がけ、さりげなく声をかけたり気配りをしている。利用者が和やかに日々を過ごすことができるよう理念を共有しケアにあたっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の中学校の運動会及び文化祭などに招待されたり地方祭の時には、だんじりが来荘してくれて写真撮影ホーム夏祭り時は地域に案内状や広報誌の配布している。また、慰問にも多数の方が来て下さっている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加している近所の理髪店の方が散髪に来てくれたり、地域のボランティアが定期的にハンドケアや歌謡ショーに訪れるなど、日常的に地域の協力が得られている。地域の中学生が定期的に訪問し、一緒に歌を歌ったり散歩をするなど、交流が利用者にとって喜びや楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2カ月毎に発行している広報誌を配布したり、2か月おきの散歩を兼ねてのホーム周辺のごみ拾いを実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に1回の割で民生委員・自治会長・近隣の方や包括支援センターの職員・家族様・利用者様に参加していただき、ホームの報告や参加の皆様と話し合い、意見を参考にしサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議には自治会長や民生委員、近隣住民、地域包括支援センター職員、介護相談員、家族、利用者が参加している。事業所の状況をよく知ってもらうために、敬老会や避難訓練を同時開催したりしている。管理者は、議題内容を一層充実させたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市のサービス向上委員会に参加したり運営推進会議には包括支援センターの職員さんに参加して貰っている。また、ホームでの困りごとや利用者様で補助人さんがいる方もいるので市の協力関係取れている。	
			(外部評価) 市が主催する勉強会に職員が参加したり、市のサービス向上委員会にケアマネジャーや管理者が出席し情報交換を行っており、協力関係を築いている。成年後見制度の利用時にも市に相談したりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会や研修にも参加し身体拘束しないケアを実施している。ホーム出入口は、朝7時から夜9時までの間は施錠していない。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについてユニット会で話し合い、勉強会や外部研修も継続して行っており、全職員が正しく理解している。言葉による拘束にも気をつけている。日中は、玄関や窓に鍵をかけないで、安全に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会等学び虐待防止を共有しているが、忙しとついつい言葉掛けの口調がきつくなっている時がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加しホーム内の勉強会でも報告しているが、全職員が理解できているかどうかは分からないが、ホームにも活用している方がいる。必要な方には支援できる体制である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が入居前には十分に説明し納得してもらっていると思っている。入居後も疑問や不安のある時は、いつでも説明に応じている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 一応、玄関ロビーに目安箱を設置しているが、この1年投稿はない。この1年で、施設管理者が3人も交代し家族様には驚いている方もいると思う。月1回の茶話会とし家族様に参加の呼掛けしているが参加者が少なく十分に家族様の意見が聞ける状態ではない。 (外部評価) 家族の面会時には、ユニットや居室に自由に入ってもらい、職員は話しやすい雰囲気づくりを心がけている。また、家族に生活記録を開示して要望を聞くようにしている。月1回、介護相談員の訪問があり、利用者の思いを聞き取っている。サービス担当者会議を「茶話会」と称して、家族が気軽に参加できるよう案内しているが、参加者が減ってきたことが課題である。クリスマス会では家族が大勢集まり、家族による楽器演奏が行われるなど良好な関係にある。	気軽に運営に関して意見や要望を出してもらえるように、家族同士で話せる機会を設けるなど工夫することに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関する意見は出来ていないと思う。 ただ、ホームでは管理者が提案を聞く体制ではあるが株式組織である為、上の意向が強く「こうして行く」と言われれば従うしかない。	
			(外部評価) 運営母体には連絡会や管理職会があり、管理者は事業所の要望を伝えている。事業所には、全体会やユニット会、栄養・環境・行事の委員会があり、誰もが意見を出し合える雰囲気がある。職員は年間目標を設定して半年ごとに自己評価をしており、その後の管理者との面談は話し合いや意見を出せる機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年度初めに自己目標の設定があり年2回自己評価や個人面談があり各自向上心を持って働ける体制を作ってくれている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者・リーダー・若手職員研修と会社内での研修がある。また、勤務内で資格のない職員にはヘルパー研修を受けれる制度や管理者が個々に合った研修に申込みや個々の希望で研修に行かせてくれている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同じ組織（株式会社）の主任クラスの会や施設見学があったり、相互研修にも毎年参加している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問調査表を参考に本人様の気持ちを傾聴しコミュニケーションを取って行く中で信頼関係に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者やケアマネが施設利用にあたり十分聞きとりを行い、職員に家族様からの傾聴した事を伝え関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前に本人様の状態を詳しく傾聴し、対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様を尊重し出来る事はしていただき、お互いが助け合って過ごしている事を実感していただき、人生の先輩である事を頭に置き接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回の日常報告を送付。面会時にも近況報告しいるまた、健康状態や緊急を要した時や利用者様より家族様へ電話の訴えある時は必ず連絡している。行事には、案内をし家族様と過ごす時間を持っていただくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自由に面会に来ていただける体制であるが、馴染みの方の面会は少ない。いつもではないが、利用者様の希望で、寺や神社のお参りなどの支援している。	
			(外部評価) 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないように、希望に合わせてお寺や神社にお参りに行っている。また、家族との外出や帰宅などを支援し、家族と一緒にお正月を自宅で過ごした利用者もいる。面会に来た知人との関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 施設内のあっちこちにベンチやソファを設置しており仲の良い者同士が話したり、レクレーションを通し関わりが持てる支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病気や怪我で入院となり退居しても面会に行ったり、その後の経過によって病院や家族様と相談し再入居される方もいる。関係を断ち切らない支援出来ている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、思いや意向の把握に努めている。また、サービス担当者会議で家族様からの声も参考に職員のユニット会でも話し合っ検討している。	
			(外部評価) 気づきノートをユニットごとに作り、利用者の変化や何気ない会話等を書き留めて、思いや意向の把握に努め職員間で共有するようにしている。利用者の食べたい物や行きたい所など、できることは迅速に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接等で把握に努め、入居後は家族様の面会時や本人様との会話の中から情報を集めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 熱計表・生活記録・ケアプラン表・気づきノートや職員同士の情報の共有にて現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回、茶話会として家族様に参加していただき、ざっくばらんに意見や思いを話していただき参考にし介護計画作成するようにしている。が、家族様の参加が少ないため事前に電話等で意見等聞く様にしている	
			(外部評価) 職員は利用者ごとに担当制を設けているが、介護計画はユニット全体で話し合っ意見を出し作成している。家族からは、利用者が家で行っていた家事や特技などの情報を聞き取り、希望などを介護計画に取り入れている。モニタリングを行ない評価し、現状に即した介護計画となるよう見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の生活記録やケアプラン行動計画書・気づきノートを参考に見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 毎月のサービス担当者会議やユニット会で個々の状況に合わせた柔軟な取り組みをしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の中学校との交流やボランティアの慰問・訪問美容室、秋祭り等でのだんじりの来荘、ブドウや柿狩りまた、外出&外食など数多くの地域資源で楽しく生活していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居当初にかかりつけ医の希望を聞き大切にしてい る。また、関連組織の病院の往診が毎週1回ある。 必要に応じ近隣の歯科医の往診もある。以前は、職 員が眼科・皮膚科等の受診に行っていたが管理者が 代わり家族様に行っていただくことになった。	
			(外部評価) 管理者は急変時などに備えて医療連携を重視してお り、入居時に利用者と家族の同意を得て、協力病院を かかりつけ医にすることもある。協力病院への受診介 助は職員が行い、その他の受診は家族の協力を得てい る。年2回の健康診断や協力病院による週1回の往 診、必要に応じて歯科医の訪問診療を受けることがで きる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者様の異変に気づいた時は、直ちに看護師に報告 適切な受診や看護の支援できている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 管理者が病院との連携を密に取り情報交換や家族様の 相談にも努め利用者様が安心して治療にあたるよう に病院との関係作りが出来ている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居当初に、最終施設でない事を伝え重度化した場合 を想定し特養の申し込みのお願いしている。 重度化に至った時は、利用者様の状態を病院と管理者 の三者会談で説明し方針を共有し支援している。	
			(外部評価) 看取りの介護は行わない方針であることを入居時に利 用者と家族に説明し了解を得ており、重度化した場合 は状態に応じて他施設への入所等を家族にお願いして いる。協力医療機関や運営母体に多様な施設があり、 安心して利用することができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 2年に1度、消防署の救急救命講習を全職員が受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災避難訓練は毎年2回実施していたが、水災害はまだ実施した事がなく11月に初めて施設だけで行った。 (外部評価) 消防署の指導のもと年2回の避難訓練を行っている。水害を想定した訓練では、短時間で2階に上がることの大変さがわかり対策を検討している。現在、水や缶詰、パン等備蓄食料があるが、余分に備えることや非常持出袋の整備を進めている。市の救急救命講習を事業所で行う予定もある。	職員が事業所の近くに住んでいることや協力病院が近いことから、災害時に協力が得られやすい環境にあるが、近隣住民との連携はまだ十分ではない。管理者は、自治会活動へ積極的に参加し災害時の協力関係を築きたいと考えており、今後の取組みに期待したい。また、自主訓練を重ねて多様な災害に備えることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉掛けや対応には細心を払っているが何度の声かけにも応じてくれない時や忙しい時などつつい声が強くなったり大きくなったりする。人格を尊重した言葉掛け対応に心掛けたいと思っている。 (外部評価) 職員は常に尊敬の気持ちを忘れず、利用者一人ひとりに合った声かけやコミュニケーションをとることに努めている。特に排泄時や入浴時は羞恥心に配慮している。管理者はサービスの質の向上のためには、尊厳やプライバシーを大切にされた接遇が重要と考え、職員教育に力を入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉の少ない方には言葉を発していただける声かけを行っているし、お茶の時間等は、好きな飲み物の希望を聞く働きかけしている。また、食事にもいつもとはいかないが利用者様の希望がの声が上がると対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望に沿えるよう支援しているが、なかなかトイレや入浴して下さらない時は強制的になる時もある。業務中心にならない様に心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服など本人様が選べない方は、持っている洋服でコーディネートさせて貰っている。月に2回近隣の美容室が出張サービスで来てくれている。また、家族様と行かれる方もいる。男性は、各ユニット1名づつしかいないので、近隣の理容室に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理の下準備や食器洗浄を一緒にしていただいている また、いつもとは言えないが好みのメニュー聞いたり目で見ても美味しく感じて貰える様に工夫している。	
			(外部評価) ユニットごとに献立を工夫し、食事とおやつの手作りに力を入れている。産直市で購入してきたり畑で採れた新鮮な野菜を使って、季節のものを食べることができるよう心がけている。クリスマスなどの行事の時にはオードブルを作り、利用者と家族が楽しめるようにしている。誕生日には外食することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量を記録し個々の1日の摂取量の把握をしている。また、個々の状態に合わせた対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨き行っている。 出来ない方には介助し、夜間は義歯洗浄液に漬けている。だが、なかなか声かけに応じてもらえない方もいるので四区八苦している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し時間の感覚で誘導している。また、立ち上がりやソワソワした時のサインに気をつけ支援している。	
			(外部評価) 車いす用の広いトイレと通常のトイレが整備され、利用者の状態によって使い分けている。日中はトイレでの排泄支援を行い、安易な紙おむつの使用はしないよう心がけている。夜間は、個々の状態に合わせてパットを使用し交換をするなど支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 暖下剤を服用している方もいるが、毎朝の食事時は、センナ茶で対応している。便秘気味の方には、センナ茶の濃さで調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、入浴できる支援している。遅めの時間帯の希望の方もいて対応しているが、声かけしても「後で後で、まだ早いわよ～」とPM8時まで待っても入って下さらない方の場合、は強制的に誘導する場合がある。	
			(外部評価) 午後の時間帯に入浴できるよう支援している。夕食後を希望する場合も対応している。浴室は一般家庭の浴室と同じ造りで、身体状況により浴槽での入浴が困難な利用者にはシャワー浴を行い、入浴できないときは清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) リビングで傾眠している時など居室で休まれる様に声かけしたり、一人じゃ嫌といわれる時は、リビングのソファでの対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は、鍵付きの薬品庫で看護師が管理している処方箋は、ユニットでファイルに綴じいつでも薬の確認が出来る様にしている。服薬の際は服薬前・服薬後の袋の確認。新しい薬の場合は変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々のレベルに合った役割や趣味の支援行っている。みんなで一つのレクリエーションや中庭での日光浴も楽しんでいる。まれに、お酒類の希望される時もあり対応している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ユニットでの外出（食事を兼ね）月1回程度ある。また、全体ではホーム全員ではないが、ぶどう狩り、柿狩りにも行っている。個々の希望により、買い物やお参り等の支援もしている。個々に家族様と外出・外泊される方もいる。 (外部評価) 中庭が広く日当たりも良いため、散歩や日光浴を楽しむことができる。近くの喫茶店に出かけることもある。車両に余裕があり、ユニット単位で外出する場合は全員で行くことができる。管理者は事業所外に外出する機会を増やしたいと考えており、利用者の希望も取り入れながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人様がお金を持つことの大切さは理解しているが、本人様のお金の管理能力に難しいところがある。 (あっち、こっちに隠す) 2・3人の方は、持参しているが家族様には、無くなってもいい額をとお願いし、購入の際はスタッフが残金確認し本人様が支払いしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書く方はいないが、携帯・電話の訴え時は、心よく支援に応じている。また、家族様より手紙やはがきが届くと見せて下さる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 加湿器や24時間換気もしておりリビングやローカにはソファを設置、広々としており居心地良くしている また、行事時の利用者様の写真や手作りカレンダーをリビングに貼っている。</p> <p>(外部評価) 共用空間は居心地よく過ごせるようすっきりと整頓され、季節の花を飾るなど季節感に配慮している。利用者は和室のこたつなど思い思いの場所でくつろいでいる。空気清浄機を配置し、気になる臭いがないよう注意している。清掃は職員が行っているが、リビングのモップがけなど利用者も手伝って常に清潔に保たれている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ウッドデッキや中庭にはベンチ、玄関ロビー・リビングやローカにもソファを設置し、いつでも好きな所でくつろげる工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族様の泊まりは基本していない。 入居時に馴染みの物を持っているが持って来られる方が少ない。家族様が祭りのポスターや家族の写真を居室に貼ってあげていたり、職員が写真やぬいぐるみ等を置いている。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドやクローゼットが備え付けられている。家庭から使い慣れた家具や好みの小物など自由に持ち込んで、その人らしい過ごしやすい空間にしている。自分で掃除ができる利用者もいるが、職員が見守りながら居室を清潔に保つよう支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室入口には、ご自分の部屋だと確認出来る様に写真入り名札を貼っている。また、ホームがバリアフリーで手すりも取り付けている為安全性が高い。 トイレだとわかるように「便所」と目印している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム 小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口1-1
自己評価作成日	平成24年 12月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 1月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・食事は、職員の手作りのメニューであり、季節感がありおいしい食事です。 ・季節毎にイベントがあり、家族様とともに利用者は楽しんでもっています。 ・毎月サービス担当者会議には、家族様にも参加してもらい、意向の把握に努めています。 ・静かな環境で、ゆっくりとした時間の流れの中で、その人らしくのんびりとした暮らしを支援しています。 ・職員と利用者は、介護される側、する側の隔たりなく同等の立場でお付き合いしています。 ・その人その人にあつたケアの実践、介護計画を提供しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は事業所の理念を共有し、利用者寄り添って温もりのある関係づくりを大切にしながらケアにあたっている。利用者ごとにアルバムを作成するなど、一人ひとりを大事にする姿勢が伺える。事業所全体やユニットごとの行事は、地域のボランティアの力を活用して行っており、利用者の楽しみになっている。家庭的な雰囲気の中で、旬の食材を使った食事やおやつを手作りして、利用者職員と一緒に食事を楽しめるように努めている。協力医療機関や同法人の他施設との連携が図られており、健康面で安心できる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 小松の里

(ユニット名) 上通り

記入者(管理者)

氏名 愛久澤 剛史 (兵頭 恵子)

評価完了日 平成24年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「温かく、さり気なく、気配り目配り」という独自の理念があり、朝夕申し送り時において、参加する職員は復唱し理念の共有に努めている。	
			(外部評価) 法人の理念をもとに、事業所独自の理念を掲げている。職員は、日頃から利用者の状態変化や思いに早く気づくよう心がけ、さりげなく声をかけたり気配りをしている。利用者が和やかに日々を過ごすことができるよう理念を共有しケアにあたっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の中学校との定期的な交流授業があったり、夏祭りや近隣のゴミ拾いなどの清掃活動、広報誌の配布などを通じて、地域との交流を実践しているが、日常的な係わりには至っていない。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加している近所の理髪店の方が散髪に来てくれたり、地域のボランティアが定期的にハンドケアや歌謡ショーに訪れるなど、日常的に地域の協力が得られている。地域の中学生が定期的に訪問し、一緒に歌を歌ったり散歩をするなど、交流が利用者にとって喜びや楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 実際のな取り組みは行なっていない。ただ、運営推進会議の場や、各行事にて地域住民に事業所の取り組みを紹介しているが、地域貢献とは程遠い。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎に開催し、事業所の取り組みやサービス状況の報告や話し合いを行い、同時に評価の結果報告も行なっている。会議にて出された意見等は事業所のサービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議には自治会長や民生委員、近隣住民、地域包括支援センター職員、介護相談員、家族、利用者が参加している。事業所の状況をよく知ってもらうために、敬老会や避難訓練を同時開催したりしている。管理者は、議題内容を一層充実させたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に市の担当者を招き意見を求めたり、毎月介護相談員の来荘がる。	
			(外部評価) 市が主催する勉強会に職員が参加したり、市のサービス向上委員会にケアマネジャーや管理者が出席し情報交換を行っており、協力関係を築いている。成年後見制度の利用時にも市に相談したりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は夜間のみであり、日中は施錠していない。どのような場面においても、身体拘束はしておらず、各研修、勉強会にて身体拘束について学び、理解している。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについてユニット会で話し合い、勉強会や外部研修も継続して行っており、全職員が正しく理解している。言葉による拘束にも気をつけている。日中は、玄関や窓に鍵をかけないで、安全に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 各研修や事業所にて定期的に実地される勉強会などの場において学ぶ機会はある、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 各研修や事業所にて定期的に実地される勉強会などの場において学ぶ機会はある、実際に制度を利用した実績もある。今後利用が必要な方については、十分に話し合い検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明、理解の上での契約、サービス利用となっており、改定時はその都度説明と納得、理解に努め、書類にて確認している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月のサービス担当者会議や、運営推進会議に家族が参加してもらい、運営に関する意見要望を聴き、反映させている。	気軽に運営に関して意見や要望を出してもらえるように、家族同士で話せる機会を設けるなど工夫することに期待したい。
			(外部評価) 家族の面会時には、ユニットや居室に自由に入ってもらい、職員は話しやすい雰囲気づくりを心がけている。また、家族に生活記録を開示して要望を聞くようにしている。月1回、介護相談員の訪問があり、利用者の思いを聞き取っている。サービス担当者会議を「茶話会」と称して、家族が気軽に参加できるよう案内しているが、参加者が減ってきたことが課題である。クリスマス会では家族が大勢集まり、家族による楽器演奏が行われるなど良好な関係にある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 毎月のスタッフ会や全体会の場において、職員 の提案を聴く機会はあるものの、自ら積極 的に意見を答申する職員は少ない。ただ、 職員からの意見については、真摯に受け止 め改善、反映に努めている。 (外部評価) 運営母体には連絡会や管理職会があり、管 理者は事業所の要望を伝えている。事業所 には、全体会やユニット会、栄養・環境・ 行事の委員会があり、誰もが意見を出し合 える雰囲気がある。職員は年間目標を設定 して半年ごとに自己評価をしており、その 後の管理者との面談は話し合いや意見を出 せる機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 管理者は、定期的に職員と個人面談を行な っており、個々の能力に合わせて、職場環 境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケ アの実際と力量を把握し、法人内外の研修 を受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間を通しての研修計画に添って、職員 の能力、実績に応じて各研修に参加してい る。ヘルパー研修は、働きながら受けれ るように配慮できている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流 する機会をつくり、ネットワークづくりや 勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをしてい る	(自己評価) 会社内での各事業所間での、主任会やリー ダー研修、管理者研修などの場において、 交流する機会がある。また、相互研修に 毎年職員が参加しており、サービスの向上 に務めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、本人の安心を確保するた めに関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用以前から、必要に応じ施設 を見学して頂いたり、利用後も初期の頃は 特に注意して傾聴し、不安の解消に努め 安心して頂けるように務めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談の段階から家族とよく話し合い、不安なこと、要 望に耳を傾け、より良い関係が築けるよう関係づくりに 努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 利用者本人の状態を細かく見極め、その時その時に必 要としている支援を検討し、必要に応じて他のサービ スの利用を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 一緒に家事や料理を行ったり、解らない事は教えても らったりする事も多く、共に生活をする者同士の関係 づくりが、出来ている方もおられるが、一部の方に限 られている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 細かな状態の報告や、職員では解決出来ない問題が生 じた時など、家族に相談したりしてアドバイスを頂い ている。また、面会時において、記録をみてもらい日 常の生活の様子を細かく報告し、共有に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 縁戚の方が面会に来られ、「勇気を出して、面会にき きました。」と言って会いに来ていただいた方もおられ た。ただ、中には馴染みの関係が途切れ、施設での暮 らしが主体となってしまう方が多い。 (外部評価) 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切 れないように、希望に合わせてお寺や神社にお参りに 行っている。また、家族との外出や帰宅などを支援 し、家族と一緒にお正月を自宅で過ごした利用者もい る。面会に来た知人との関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い方同士は一緒にテーブル席に座って、食事の下準備をしたりして過ごしてもらっているが、認知症のレベルが低下している方は、個別での支援になってしまっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了した方との係わりは、殆ど無く関係が途切れてしまっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ユニット会やサービス担当者会議の場において、アセスメント行い、また、日頃の暮らしの中から会話の中で、意向や思いの把握に努めている。困難な方については、表情や仕草から読み取る努力をしている。	
			(外部評価) 気づきノートをユニットごとに作り、利用者の変化や何気ない会話等を書き留めて、思いや意向の把握に努め職員間で共有するようにしている。利用者の食べたい物や行きたい所など、できることは迅速に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前の調査の段階より生活歴の把握に努め、利用後も家族の面会時に、以前の情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日記録している生活記録や、毎月のサービス担当者会議にてアセスメントを行い、現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のサービス担当者会議に、チームスタッフと家族の参加を呼びかけ、現状に即した介護計画の作成を行っている。参加出来ない家族にも介護に対する意向を聴き、反映している。	
			(外部評価) 職員は利用者ごとに担当制を設けているが、介護計画はユニット全体で話し合っ意見を出し作成している。家族からは、利用者が家で行っていた家事や特技などの情報を聞き取り、希望などを介護計画に取り入れている。モニタリングを行ない評価し、現状に即した介護計画となるよう見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の生活記録、オンリーワンメモ、気づきノートの活用を通じて情報を共有し、ケアのヒントになる情報は介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ病院受診しており、浮腫を軽減する為の足浴や機能低下予防に歩行練習をしたりと、事業所の資源で出来る事を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣中学校との定期的な交流授業などはあるものの、具体的な地域資源の活用は出来ていない。また地域資源の把握も出来ていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体病院が毎週往診にきており、必要に応じ受診して いる。家族の希望があれば、尊重しその病院が受診出 来るよう配慮している。今現在、家族に対しての受診 希望を募っている段階である。	
			(外部評価) 管理者は急変時などに備えて医療連携を重視してお り、入居時に利用者と家族の同意を得て、協力病院を かかりつけ医にすることもある。協力病院への受診介 助は職員が行い、その他の受診は家族の協力を得てい る。年2回の健康診断や協力病院による週1回の往 診、必要に応じて歯科医の訪問診療を受けることがで きる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤看護師に日々の生活の中で体調に異変があれば、 その都度報告し支持を仰いでいる。また必要に応じて 受診している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院したら、その後の状態を病院側と連絡を密に行 い、情報交換行なっている。入院先がほぼ母体の病院 である為、関係は構築されている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用契約時において、家族と十分に話し合い意見交換 を行っており、同意と納得のもとに支援出来てい る。重度化、終末期ケアは方針として実施してい ないが、状態が悪化した時には、その後の可能性を説明 し、早期の受診をすすめている。	
			(外部評価) 看取りの介護は行わない方針であることを入居時に利 用者と家族に説明し了解を得ており、重度化した場合 は状態に応じて他施設への入所等を家族にお願いして いる。協力医療機関や運営母体に多様な施設があり、 安心して利用することができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 2年に一度消防署で、AED使用等の緊急時対応講習を受けている。新人職員以外は全員講習を受けている。また、事業所内の勉強会、各研修においても講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災時避難訓練は年2回消防署の支持のもと実施し、風水害時における避難訓練も今年12月に初めて実施した。ただ、地域との協力は未だに出来ていない。 (外部評価) 消防署の指導のもと年2回の避難訓練を行っている。水害を想定した訓練では、短時間で2階に上がるこの大変さがわかり対策を検討している。現在、水や缶詰、パン等備蓄食料があるが、余分に備えることや非常持出袋の整備を進めている。市の救急救命講習を事業所で行う予定もある。	職員が事業所の近くに住んでいることや協力病院が近いことから、災害時に協力が得られやすい環境にあるが、近隣住民との連携はまだ十分ではない。管理者は、自治会活動へ積極的に参加し災害時の協力関係を築きたいと考えており、今後の取組みに期待したい。また、自主訓練を重ねて多様な災害に備えることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉がけには注意し尊厳を持って接しているが、意見の相違や食い違いが起こり、結果としてプライバシーを損ねてしまう場合があり、更なる注意が必要と感じている。 (外部評価) 職員は常に尊敬の気持ちを忘れず、利用者一人ひとりに合った声かけやコミュニケーションをとることに努めている。特に排泄時や入浴時は羞恥心に配慮している。管理者はサービスの質の向上のためには、尊厳やプライバシーを大切にされた接遇が重要と考え、職員教育に力を入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定出来るよう、支援しているつもりであるが、場合によって職員ベースのケアになってしまう場合が多く見られ、なかなか理想通りには出来ないのが現状だ。意志表示、自己決定出来る能力が乏しい方も多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人の希望要望の把握には努めているが、どうしても職員のペースになってしまう場合が多い。上に同じ。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自分で出来る方はしていただいているが、能力の乏しい方は職員が支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と共に食事を楽しんでいる。下準備出来る方は一緒にしてもらっている。食事時は何気ない会話を交えながら、ゆっくりと共に食事を楽しんでいる。	
			(外部評価) ユニットごとに献立を工夫し、食事とおやつの手作りに力を入れている。産直市で購入してきたり畑で採れた新鮮な野菜を使って、季節のものを食べることができるよう心がけている。クリスマスなどの行事の時にはオードブルを作り、利用者と家族が楽しめるようにしている。誕生日には外食することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その人その人の能力に応じて、食事形態や量を調節して支援している。食事量、水分摂取量はチェック表を元にバランスよく取れるよう支援出来ている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを実施。義歯の方は洗浄液にて毎日清潔に努めている。不調を訴える方はかかりつけの歯科医の往診を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表にて排泄パターンの把握に努めている。おむつ類の使用の方が多く、身体的にレベルの低下している方がほとんどである為、排泄自立への支援は、難しくなっている。現状でできる限りのケアは行なっている。</p> <p>(外部評価) 車いす用の広いトイレと通常のトイレが整備され、利用者の状態によって使い分けている。日中はトイレでの排泄支援を行い、安易な紙おむつの使用はしないよう心がけている。夜間は、個々の状態に合わせてパットを使用し交換をするなど支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘予防の為、センナ茶の飲用を進め、緩下薬に頼らず出来るだけ自然排便に努めている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 必ず一声かけ、希望に添って入浴を勧めているが、毎日午後からの入浴であり、限られた時間の中での支援になっており、職員の都合での入浴支援になる場合もある。</p> <p>(外部評価) 午後の時間帯に入浴できるよう支援している。夕食後希望する場合も対応している。浴室は一般家庭の浴室と同じ造りで、身体状況により浴槽での入浴が困難な利用者にはシャワー浴を行い、入浴できないときは清拭を行っている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) その日その時の状況、状態に応じて、居室で休んで頂いている。夜間においては、遅くまでテレビを観てから、休まれる方や、なかなか眠りにつくことが出来ず、職員が側で付き添い添い寝して休まれる方もいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋、説明書きにて確認出来るようになっている。解らない時は、看護師、病院医師等に確認をとっている。服薬時は、必ず3度の確認を徹底している。新たな薬の服薬時は症状の変化の観察に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事仕事であったり、趣味の園芸や買い物に出かけたりと出来る方は支援している。日によっては、不穏の方の対応や徘徊される方の対応に追われ、十分に支援出来ない時もある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的ではないものの、希望される方については、週1回程度の外出（買い物）支援している。全員が参加の外出支援は年、3～4回程度。家族や地域の協力は出来ていなく、職員のみでの支援になっている。 (外部評価) 中庭が広く日当たりも良いため、散歩や日光浴を楽しむことができる。近くの喫茶店に出かけることもある。車両に余裕があり、ユニット単位で外出する場合は全員で行くことができる。管理者は事業所外に外出する機会を増やしたいと考えており、利用者の希望も取り入れながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を管理出来る方はおられず、職員での管理になっている。買い物に行った時は、本人に好きな物を選んでもらい、支払いは職員が行なっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 出来ていない。希望があれば、いつでも支援出来る体制は整っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節に合わせての飾りものを配置したり、カーテンやすだれで外部からの光の調節をして配慮している。室温は日に3度（10時・15時・20時）計測し、加湿器にて湿度調整している。</p> <p>(外部評価) 共用空間は居心地よく過ごせるようすっきりと整頓され、季節の花を飾るなど季節感に配慮している。利用者は和室のこたつなど思い思いの場所でくつろいでいる。空気清浄機を配置し、気になる臭いがないよう注意している。清掃は職員が行っているが、リビングのモップがけなど利用者も手伝って常に清潔に保たれている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テーブルの配置を変えてみたり、テレビがどこでも観ることが出来るように調整し、仲の良い方同士と一緒に過ごせる工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 思い思いの馴染みの品を居室には持ち込み、家族の写真や手紙などをいつでも閲覧できるように、配置している。居室で趣味の園芸を行なっている方もいる。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドやクローゼットが備え付けられている。家庭から使い慣れた家具や好みの小物など自由に持ち込んで、その人らしい過ごしやすい空間にしている。自分で掃除ができる利用者もいるが、職員が見守りながら居室を清潔に保つように支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下、トイレ、浴室には、手すりを配置し、床は全面バリアフリー構造になっている。各居室にはひと目で解るように写真付きの名札を貼って、混乱が生じないように配慮している。</p>	